

足首の上の皮膚の色が黒く硬くなっています。3カ月前に傷ができたので家で処置をしていますが、傷は深くなるようで良くなりません。

岡山市 48歳 主婦

一般的に「かぶす」は簡単に治ると思われていますが、治療にもかかわらずほとんど傷が深くなり治療に難渋する場合があります。難治性潰瘍とは治療に抵抗する慢性潰瘍のことです。その原因には、血毒性、うっ血性、リンパうっ滞性、感染性、圧迫性、医原性、外傷などがあります。

うっ滞性脂肪織炎(皮膚が硬く、色が濃茶褐色になる)に合併する下腿潰瘍はうっ血によるものです。うっ血とは静脈に特有な「弁」が壊れて生じる静脈高血圧です。うっ血が高じると組織の酸素欠乏、皮膚への酸素の供給が妨げられ表皮細胞が壊死に陥り、皮膚自体も硬化萎縮して潰瘍を形成するといわれています。

患肢挙上をすれば症状は治まりますが、足を上げながら普通に社会生活を続けることは不可能です。これを補うために弾力ストッキングがあります。これが充分ではありません。治療には、静脈圧を確実に正常化する必要があります。皮下静脈に原因がある場合には、下肢静脈瘤の治療と同様にストリッピング手術や血管内レーザー治療が必要になる場合があります。また、筋肉の中にある深部静脈が原因の場合には手術を行って静脈圧を正常化させることは容易ではありません。

欧米では、この種の下腿潰瘍が多く、さまざまな圧迫療法の商品が開発されていますが、残念ながら日本での入手は困難であり、弾力包帯を必要十分な力で巻くことが一般的です。特殊な知識が必要な場合が多いので専門医に相談されることをお勧めします。



回答医師

じょく

諸國 眞太郎 先生

Profile

医療法人社団操仁会 理事長

岡山第一病院 下肢静脈瘤日帰りセンター長*

諸國眞太郎クリニック院長(4月15日開設)**

1981年岡山大学医学部卒業、同第二外科に入局。

1984年岡山大学附属病院講師。末梢動脈疾患、下肢静脈瘤など血管外科に携わる。2007年4月から現職。

* 岡山市高屋343 TEL.086-272-4088

** 岡山市錦町11-17 OWLSTYLE錦町2 4F

TEL.086-224-1313

U R L : <http://www.okayama-dalichi.jp>

e-mail: info@okayama-dalichi.jp